

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信



発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム VOL.25 2013年 4月号
文責：伊藤 浩明 編集：小木曾 理佐

平成 25 年度が始まりました。当院の緩和ケアチーム通信も、平成 23 年 4 月より開始し、満 2 年となりました。開始以来、毎月 1 回発行して、病院内の電子掲示板とホームページで掲載してまいりました。興味を持っている方に少しでもお役にたてるよう、これからも地道にコツコツと発信していけると良いと思っています。

緩和ケアチームの実績

平成 24 年度の活動実績の概要です。チーム加算は取れていませんが、依頼件数は平成 23 年度は 70 件でしたが、平成 24 年度は 81 件と少しずつ増えてきております。

★依頼件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
7	7	8	4	10	3	11	5	7	8	6	5	81

★依頼内容

	人数
がん疼痛	46
疼痛以外の身体症状	40
精神症状	19
家族ケア	17
倫理的問題(鎮静など)	2
地域との連携・退院支援	9
その他	21
計	154

★転帰

	人数
介入終了(生存)	6
退院(在宅ケア導入なし)	7
退院(在宅ケア導入あり)	3
死亡退院	30
緩和ケア病棟入院	24
その他の転院	1
計	71

★介入日数

	人数
～7日	17
～14日	22
～21日	9
～28日	6
～35日	5
～42日	5
～49日	4
～70日	2
～77日	1
計	71

第1回緩和ケア勉強会を行いました。

4月11日(木)に平成 25 年第1回緩和ケア勉強会を行いました。今年度の年間テーマは「緩和ケアと地域連携」とし、第1回では、当地域における緩和ケアの地域連携の現状と今後の方向性についての話をいたしました。今後の発信として「早期からの緩和ケア(がん治療をするための“生きる土台づくり”としての緩和ケア)」、「大きな病院小さな病院(在宅療養体制を整えてから退院し、地域を大きな病院として、小さな病院である病院と行ったり来たりできるようにする)」、「主治医 2 人体制(がんの治療医と体調の治療医の主治医 2 人体制を療養の早い時期から整える)」についてお話しいたしました。また、志津先生からは、肺癌患者の病診連携に向けて診療所に対しておこなったアンケート調査の結果を報告し、訪問診療を実施している施設は 3/4 に及び、その大半が在宅での看取りが可能であるものの、近医との協力体制や後方支援病院の充実が課題であることなどを勉強しました。西江先生からは、癌性疼痛に対する超音波内視鏡を用いた腹腔神経叢ブロックによる鎮痛とその実際について、ビデオを用いて分かりやすく勉強いたしました。

5月の勉強会予定

第1回 緩和ケア講演会

日時: 5月16日 18時～19時半

場所: 中央診療棟3階講堂

内容: 『当院の緩和ケア病棟における口腔ケアについて』 (歯科口腔外科: 佐藤 文彦)

『院内の口腔ケアと地域連携への課題』 (摂食・嚥下障害認定看護師: 二村 洋代)

『在宅での口腔ケアの重要性と現状』 (多治見口腔ケアグループはねっと: 栗木 みゆき)

